

千葉 蒼玄 「飛ばし」

千葉蒼玄は宮城県石巻出身の書家である。幼少時より書を学び、寛容な師の元で若くして独自の技法を考案し、独特の表現世界を発展させてきた。

蒼玄の表現のひとつに、超長鋒（ちょうちょうほう）と呼ばれる自身で開発した鞭のような細長い毛の筆を用いて、筆の軸の回転運動によって墨の鋭い飛沫を意図的に紙面に刻む「飛ばし」がある。

「飛ばし」は筆を持つ手をただ振り回すのではなく、手首を捻るように柔らかく回転させることで筆軸の丸い断面の中心を起点に筆軸を回転させながら線を引くため、そのエネルギーが起点から30cm程の通常の筆よりもかなり長い毛先に向かって瞬間的に増幅して墨が飛び散る。そしてその飛沫の表れ方は蒼玄の技術によってコントロールされる。

「飛ばし」で表現されるテーマは、ビッグバン等の爆発的現象や、火の鳥など、宇宙的なことや神秘的な人智を超えたスケールの大きなものが多い。

2011年3月11日の東日本大震災で気仙沼に保管していた長さ10m超の代表作を含む100点以上が津波に流されるが、すぐに立ち上がり、失われたものへの「鎮魂と復活」をテーマに東京と仙台で大規模な個展を開催する。